

漢詩

ちくりかん  
「竹里館」  
おうい  
王維

ひと ぎ  
独り坐す  
ゆうこう うら  
幽篁の裏

きん だん ま ちようしよう  
琴を弾じ 復た長嘯す

しんりん ひとし  
深林 人知らず

めいげつ き あいて  
明月 来たりて相照らす

とう おうい  
\*唐の王維 (六九九〜七六一) の五言絶句。  
ごごんぜっく

げんじ あんせい つか おく  
「元二の安西に使いを送る」

おうい  
王維

いじょう ちやうう けいじん うるお  
渭城の長雨 軽塵を浥し

かくしや せいせい りゆうしよくあらた  
客舎 青々 柳色新なり

きみ すす きら いっぱい さけ つ  
君に勧む 更に一杯の酒を尽くせ

にし ようかん いず こじん な  
西のかた陽関を出づれば故人無からん

しちげんぜっく  
\*七言絶句。

らくゆうげん  
「楽遊原」  
りしやういん  
李商隠

くれ なんな  
晩に向んとして 意適わず  
いかな

くるま か こげん のぼ  
車を駆りて 古原に登る

せきよう むげん よ  
夕陽 無限に好し

た こ こうこん ちか  
只だ是れ黄昏に近し

とう りしやういん  
\*唐の李商隠（八一三〜八五八）の五言絶句。  
ごごんぜっく

【参考資料】

- 『声に出してよむ漢詩の名作50』 莊魯迅／著 （平凡社）  
『中國詩人選集 6 王維』 （岩波書店）  
『中國詩人選集 15 李商隠』 （岩波書店）